

なるほど健康講座

『インフルエンザ』

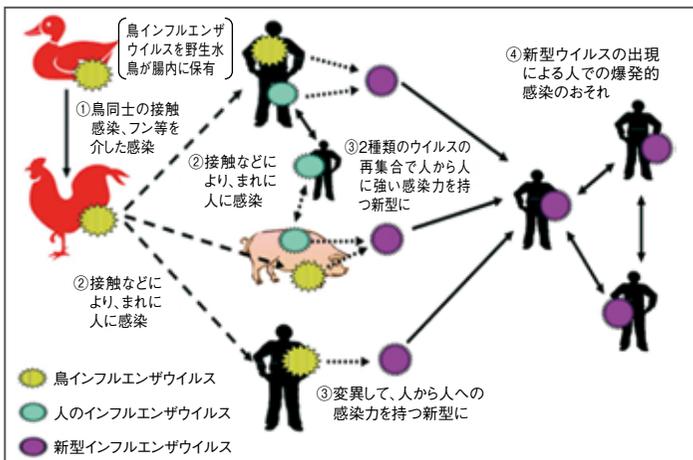


医療法人 明医研  
呼吸器内科 阿部 直  
特任医師

インフルエンザは流行性感冒とも言われますが、重症化しやすく、感冒（一般のかぜ）とは区別すべき病気です。乳幼児では、年間数百例の急性脳症が発生しています。また、気管支喘息、心不全、糖尿病、免疫不全などの病気がある方や、65歳以上の高齢者では重症化しやすく、日本では、インフルエンザによる直接的・間接的死亡者数は年間1万人と推計されています。  
**症状**：典型的症状は、38度以上の熱と共にだるさ、筋肉痛、関節痛などの強い全身症状が急に出来ますが、症状が軽く感冒様の症状のみの場合もあります。  
**診断**：鼻の粘液を綿棒でぬぐい取ってインフルエンザウイルスの有無を検査します。測定原理は抗原抗体反応でA型かB型かの判定ができます。10分前後で判定できますが、インフルエンザの発症後12時間以内ではウイルス量が少なく、診断が困難です。

**予防接種**：はしかのワクチンのように、発病を確実に阻止することはできませんが、重症化や合併症を減らします。高齢者に対しては、死亡の危険を½に、入院の危険を½〜½にまで減らせます。さいたま市在住の65歳以上の方は補助が受けられます。予防接種の効果が出るまでに2週間かかりますので、早めに予防接種を受けて下さい。  
**治療**：抗ウイルス薬が何種類かありますが、いずれも発症後48時間以内に治療を始めることが重要です。従って、インフルエンザを疑ったら、早めの受診が必要です。  
**注意点**：治療薬のタミフル服用後に、異常行動による転落死の報道が以前にありました。その後、他の治療薬でも異常行動が生じ、インフルエンザ自体に伴って起きる場合があることがわかりました。発症から2日間は、保護者は小児・未成年者が一人にならないよう配慮すべきです。  
**新型インフルエンザと鳥インフルエンザ**：新型インフルエンザは、これまでのインフルエンザウイルスとは性質（抗原性）が大きく異なり、ヒトが免疫を持っていないために、爆発的に流行する可能性があるものを指します。鳥インフルエンザウイルスは、遺伝子の変異によって、新型インフル

エンザウイルスになる可能性があり、その仕組みは、2つ考えられています。ひとつは、鳥インフルエンザウイルスがヒトや鳥類の体内で変異すること、もうひとつは、ヒトや豚に、ヒトのインフルエンザウイルスと鳥インフルエンザウイルスが同時に感染し、それぞれが混ざり合って、ヒトからヒトへ感染する新型インフルエンザウイルスになることです。（図参照）。



(厚生労働省ホームページ (HP) より引用)